



スポーツを通じた健康増進について

令和5年7月
スポーツ庁

少子高齢化社会の進展

✓ 国民医療費は年間40兆円越え

社会変化に伴う現代の課題

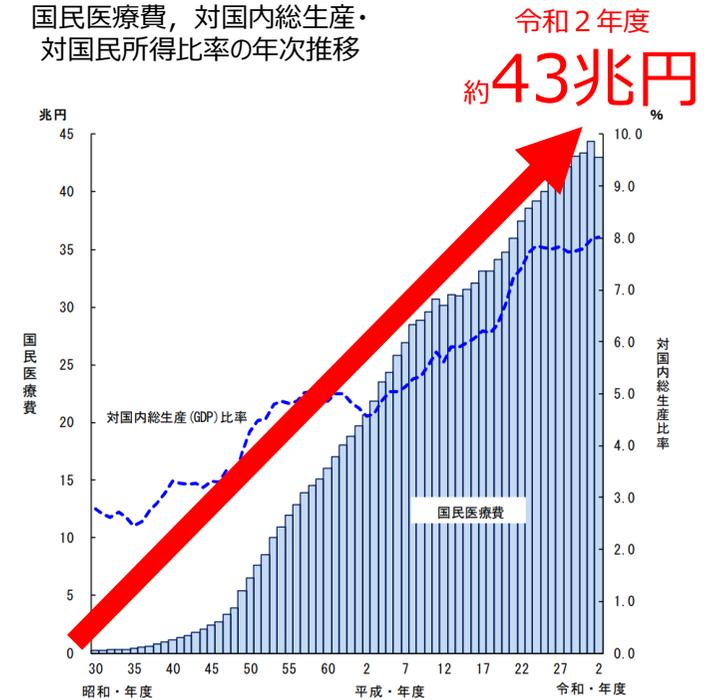
✓ テレワークの増加などによる運動不足

スポーツの持つ「価値」の再認識

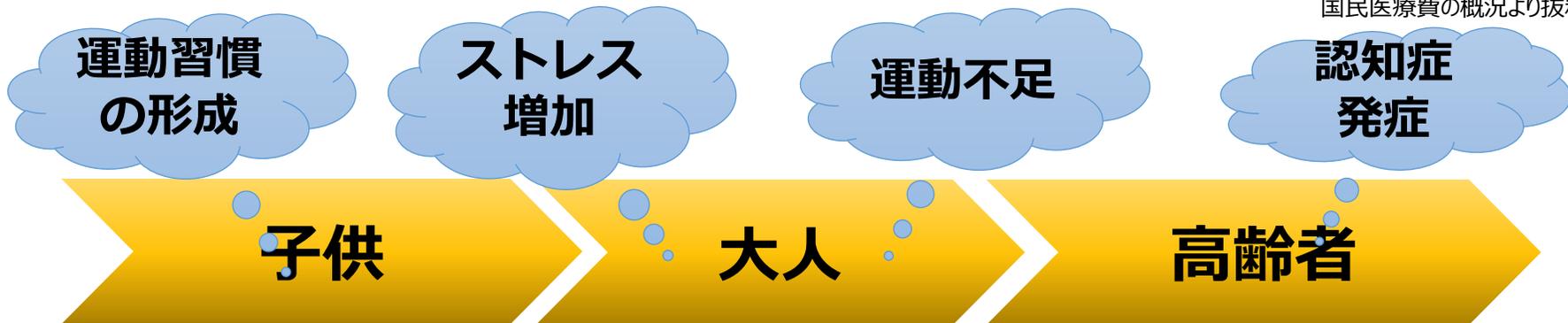
✓ 「楽しさ」や「喜び」を得られる

✓ ライフパフォーマンス、QOLも向上

国民医療費，対国内総生産・
対国民所得比率の年次推移



【出典】厚生労働省 令和2(2020)年度
国民医療費の概況より抜粋

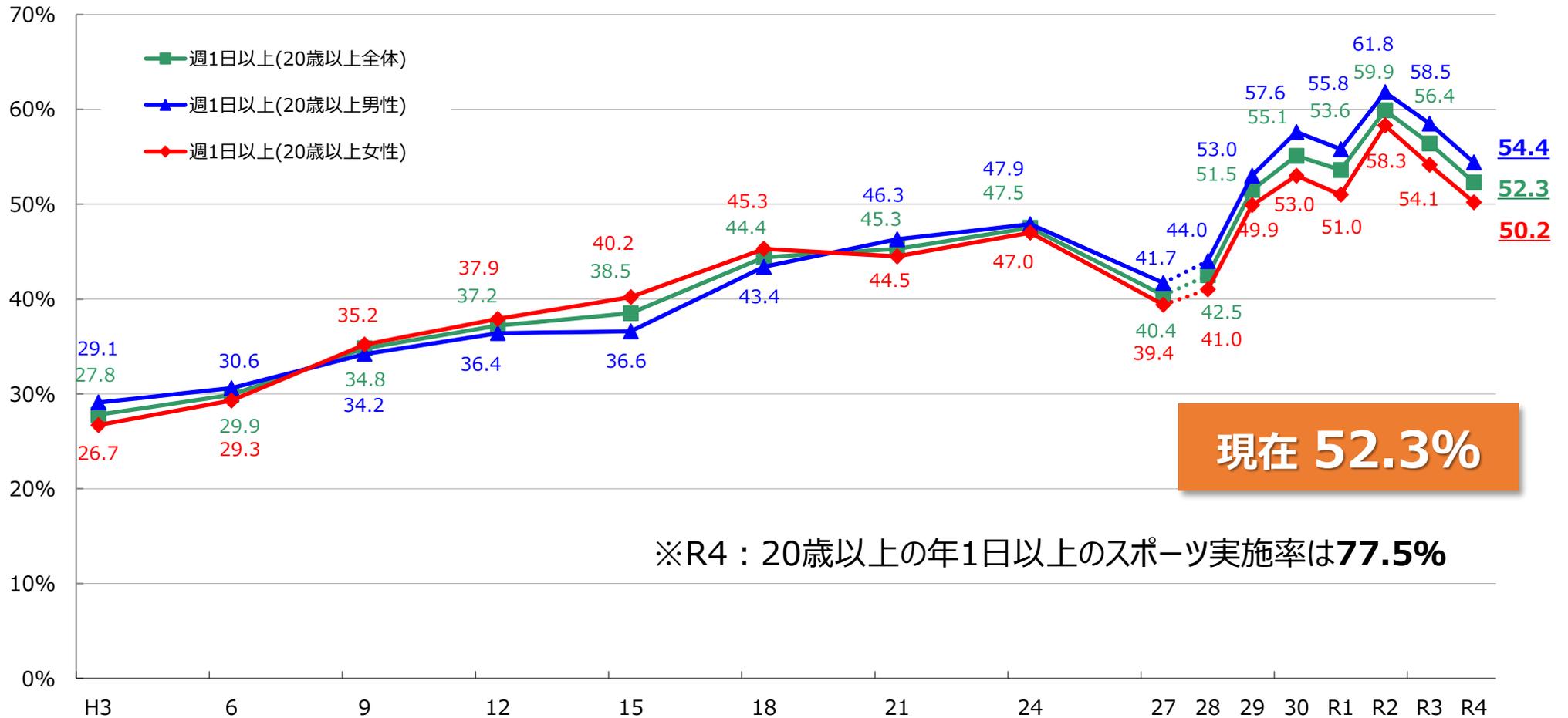


どのライフステージにおいても、
運動・スポーツが健康増進のため不可欠

20歳以上のスポーツ実施率の状況

第3期スポーツ基本計画の目標

成人の週1日以上スポーツ実施率： 70%
成人の年1回以上のスポーツ実施率： 100%に近づく



現在 52.3%

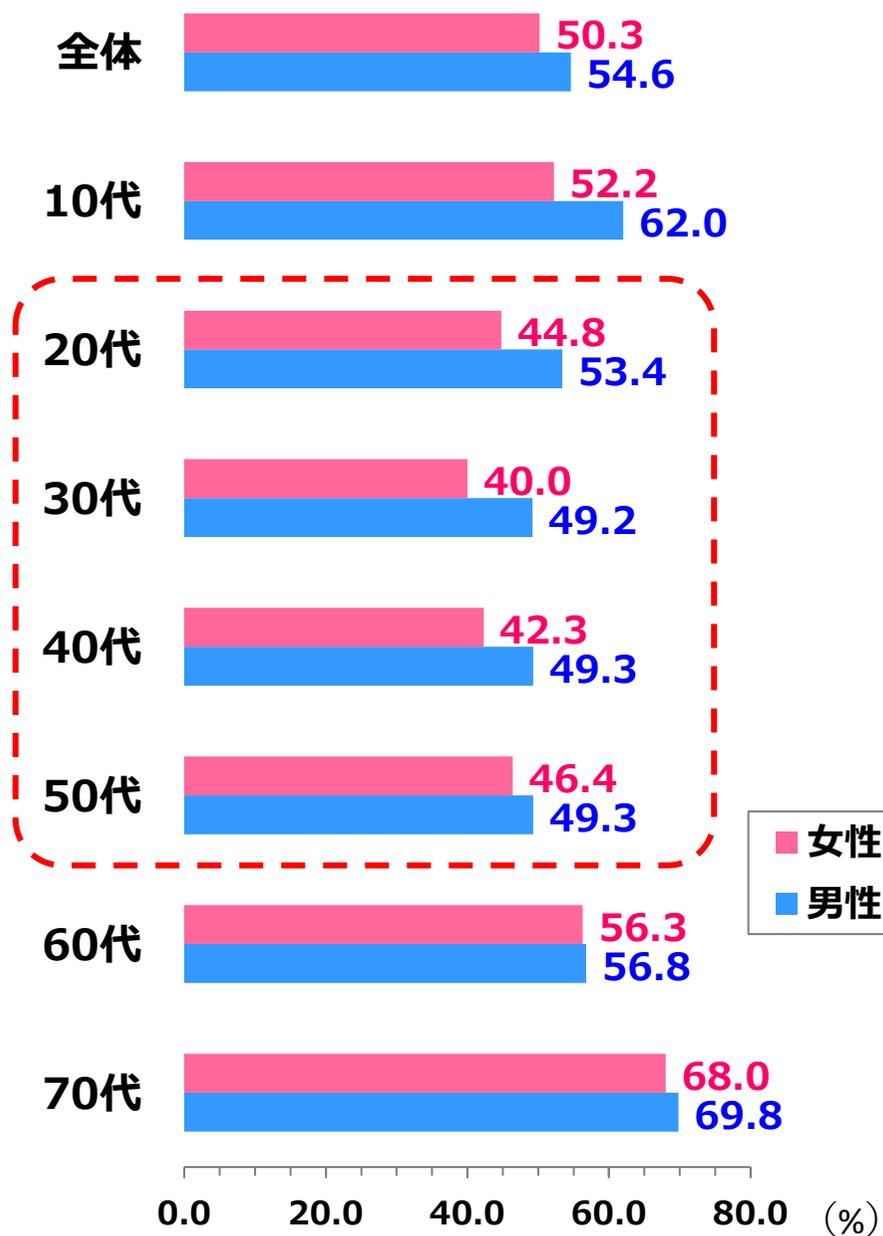
※R4：20歳以上の年1日以上スポーツ実施率は**77.5%**

※第3期スポーツ基本計画（R4年度～8年度）においては、「成人のスポーツ実施率」は「20歳以上のスポーツ実施率」を用いて評価することとしている。

＜出典＞「体力・スポーツに関する世論調査」（平成24年度まで）、「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」（平成27年度）、スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（平成28年度から）

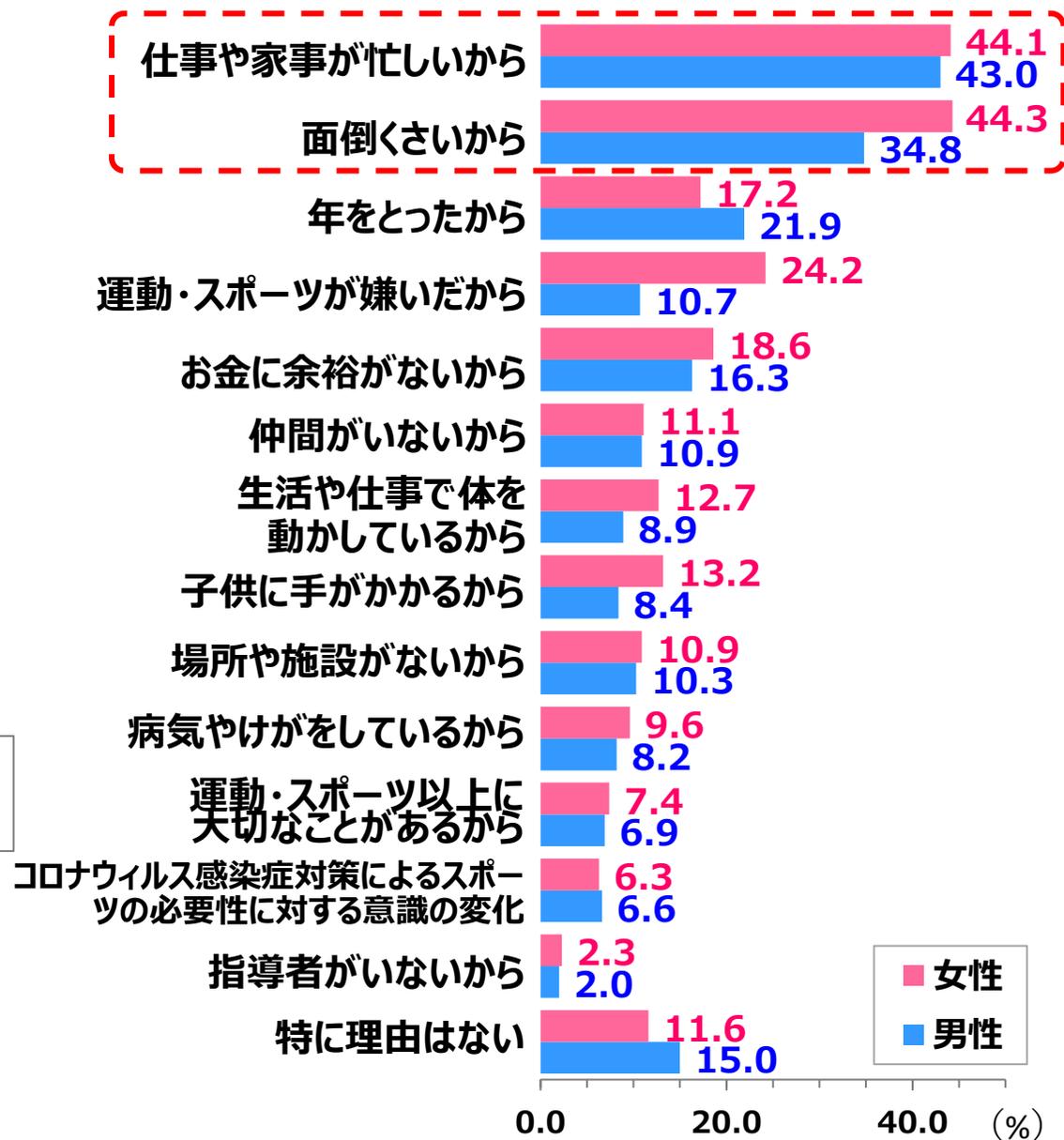
性別・年代別スポーツ実施率と阻害要因

■ 年代・性別スポーツ実施率 (週1日以上)



※10代は18歳, 19歳のみ

■ スポーツ実施の阻害要因 ※複数回答可 (週に1回以上実施できない・直近1年に運動しなかった理由)



(出典) 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(令和4年度 スポーツ庁実施) より作成

スポーツによる健康増進（第3期スポーツ基本計画より）

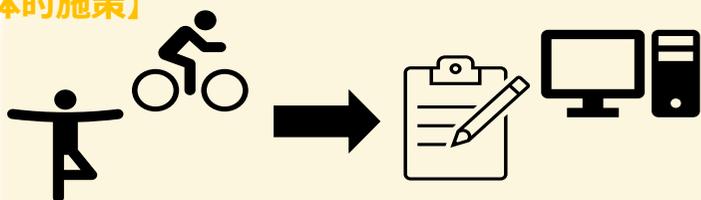
【政策目標】

地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係省庁で連携しつつ、スポーツを通じた健康増進により**健康長寿社会の実現**を目指す。また、**健康寿命の延伸**に、スポーツ実施率の向上を通じて貢献する。

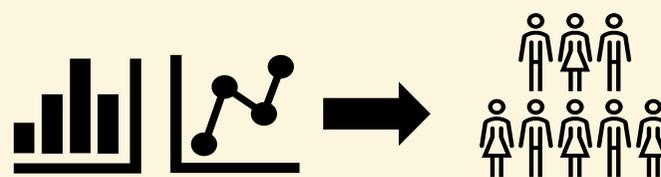
● 広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出

▶ スポーツと健康の関係やスポーツ実施促進の効果的な方法等についての**科学的知見の蓄積・普及・活用**を行う。

【主な具体的施策】



地方公共団体に対し、各地域の実態に応じた効果的なスポーツ実施促進施策について、調査・検討を行えるよう支援する。

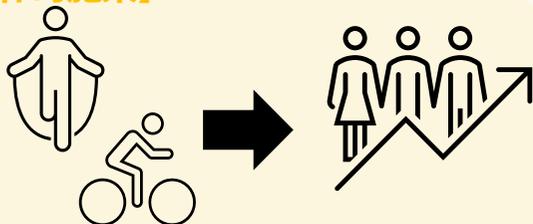


心身の健康に資するスポーツ等の研究を支援し、これらの科学的根拠をまとめる体制を構築するとともに、地方公共団体やスポーツ関係団体に、まとめた情報をわかりやすく周知する。

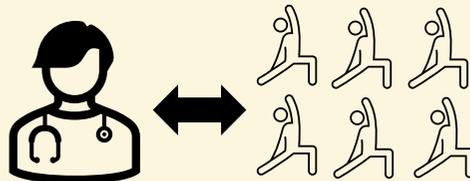
● 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進

▶ **行政内部部局間の連携や医療・介護とスポーツの連携**を促進する。

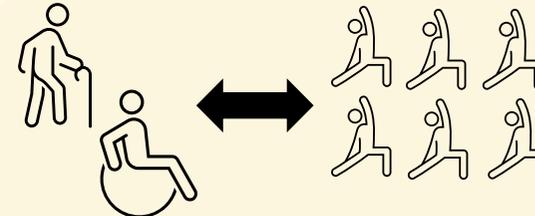
【主な具体的施策】



スポーツによる幅広い健康増進効果やスポーツ実施促進の効果的な取り組み方法等について、情報共有・普及啓発支援を行う。



医師が作成する運動処方情報に基づき、地域の運動・スポーツ教室等で適切なプログラムが提供され、安全かつ効果的に運動・スポーツを実践できる環境の整備を支援する。



介護とスポーツの連携を促進する事例の創出を支援するとともに、運動処方から適切なプログラムを作成できる専門家の養成を支援する。

スポーツを通じた健康で活力のある社会の実現 (Sport in Lifeプロジェクト)

- 【現状・課題】 性別、年齢、障害の有無等にかかわらず、誰もがスポーツに親しめる環境整備が必要であり、スポーツが生涯を通じて生活の一部となることで人生や社会が豊かになるという「Sport in Life」の実現を目指し、コンソーシアム設置や加盟団体等の連携促進などを実施。
- 【今後の取組】 引き続き、プロジェクトを通じた連携促進や取組モデル創出、研究事業等に取り組む。

- 「Sport in Life」(スポーツが生涯を通じて生活の一部となることで人生や社会が豊かになるというもの) の理念に賛同する民間企業、地方自治体、スポーツ団体、経済団体等で構成する**コンソーシアムを設置**(令和5年度末時点の**加盟団体は約2,500団体**)
- 加盟団体の取組を表彰する「**Sport in Lifeアワード**」を実施
- スポーツ参加人口拡大に向けた**取組モデル創出事業**を実施
- 従業員に対しスポーツを通じた健康増進の取組を行っている企業を、「**スポーツエールカンパニー2023**」として認定(915企業)
- スポーツ実施率の向上に向けた**総合研究事業**を実施

◆ Sport in Life コンソーシアムの設置

取組みの広げ方が
わからない、労力
がかかる

取組みをアピール
する機会がない



(コンソーシアムへの加盟)



個で活動するスポーツに携わる
企業・団体を取り巻く環境

Sport in Lifeコンソーシアム



コンソーシアムの主な活動

- 01 団体間の連携によるシナジー効果の創出
- 02 取組を類型化して個々の取組を紹介
- 03 スポーツ人口拡大に向けた取組モデル創出事業の公募
- 04 Sport in Lifeアワード(優良事例の表彰)

(参考) スポーツを通じた健康で活力のある社会の実現 (Sport in Lifeプロジェクト)



◆ Sport in Life アワード

○加盟団体の優れた取組を表彰
令和4年度

- ・大賞 1団体
- ・優秀賞 8団体 (企業3、団体2、自治体3)

○受賞した取組は事例集にまとめ、ホームページで広く発信



◆ 取組モデル創出事業

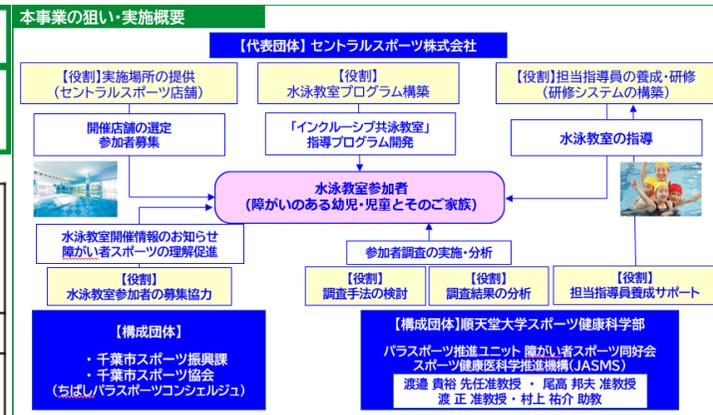
○スポーツ実施人口の裾野拡大を目的として、従来のスポーツの枠にとらわれず、新たなアプローチにより、スポーツ実施者の増加に向けたモデルとなる先進事例を形成

○令和4年度は、11団体を採択

【採択事業例】

代表団体名: セントラルスポーツ株式会社
事業タイトル: 障害のある人もない人も、すべての人に水泳と健康を！『インクルーシブ“共泳”教室』

構成団体	順天堂大学スポーツ健康科学部 千葉市市民局生活文化スポーツ部スポーツ振興課 (公財)千葉市スポーツ協会ちばパラスポーツコンシェルジュ
事業のターゲット	①子供・若者 ②働く世代・子育て世代 ⑤障害者
実施フィールド(地域)	千葉市内(セントラルスポーツ株式会社2店舗のプールで開催)



◆ スポーツエールカンパニー

○従業員の健康増進のためにスポーツ活動の促進に積極的に取り組む企業（コンソーシアム加盟団体）を認定

2023年は、915団体を認定

【スポーツエールカンパニーの認定を受けるメリット】

- ・ハローワークの求人票等に、PRロゴマークとしてスポーツエールカンパニーロゴマークを表示できる。
- ・スポーツ庁が行う調達案件の審査時に、スポーツエールカンパニー認定企業には加点される。



(参考) スポーツを通じた健康で活力のある社会の実現 (Sport in Lifeプロジェクト)

スポーツ実施率の向上に向けた総合研究事業の実施 (趣旨)

- スポーツ庁では、第3期スポーツ基本計画（令和4年度～令和8年度）において、**国民のスポーツ実施率を向上**させ、日々の生活の中でスポーツの価値を享受できる社会を構築するという目標を掲げており、特に**東京オリンピック・パラリンピック競技大会(東京大会)で得られた科学的知見の活用やスポーツ実施の機運等のレガシーを継承**することが重要。
- 第3期スポーツ基本計画では、「国は、地方公共団体やスポーツ関係団体、民間事業者、経済団体等に対し、科学的根拠に基づき、スポーツによる健康づくり、コンディショニングの方法、栄養・休養の取り方等 の健康に資するスポーツに関する情報を分かりやすく発信する」としており、**東京大会で得られた科学的知見等の一般への普及と、新たな視点でスポーツの価値を高めること**によるスポーツ実施率の向上を目指す。

研究テーマ (R5.7時点)

1. スランプの要因と解決策に関する調査研究
2. 運動器機能低下に対する地域における効果的な運動療法のあり方に関する研究
3. スポーツの価値を高めるための運動・スポーツが身体に与える影響に関する新たな研究促進と医学的知見の集積に向けた調査研究
4. スポーツ実施が社会保障費（医療・介護）に及ぼす効果及びその評価方法に関する研究
5. 女性のスポーツ実施促進に係る環境整備等に関する研究
6. 地域における健康づくりに資する安全かつ効果的な運動・スポーツを推進するための事業の在り方に関する研究

【参考：第3期スポーツ基本計画（抄）】

今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策（5）スポーツによる健康増進

〔今後の施策目標〕

✓ スポーツと健康の関係やスポーツ実施促進の効果的な方法等についての科学的知見を蓄積し、蓄積された科学的知見の普及・活用を通じて健康増進を図る。

疾患を有する方の安全で楽しい運動・スポーツの実践・習慣化 (運動・スポーツ習慣化促進事業)

- 【現状・課題】 有疾患の方を含め、誰もが身近な地域で安全かつ効果的な運動・スポーツを日常的に実施するためには、地域の体制整備が必要であり、スポーツを通じた健康増進に資する取組の支援を実施。
- 【今後の取組】 引き続き、地域の実情に応じて地方公共団体が行う、多くの住民が安心して、安全かつ効果的な健康づくりのための楽しい運動・スポーツを習慣的に実施するため取組を支援する。

体制整備の取組【必須事項】

効率的・効果的に取組を実施することができる連携・協働体制の整備



習慣化させるための取組【必須事項】

- ① **医療と連携した**地域における運動・スポーツの習慣化の取組
- ② **要介護状態からの改善者を含めた、介護予防を目指した**地域における運動・スポーツの習慣化の取組
- ③ **障害の有る人が、ない人と一体となった**形での運動・スポーツの習慣化の取組
- ④ 以下のいずれかのターゲットに係る主に**スポーツ無関心層に対する**地域における運動・スポーツの実施・習慣化に係る取組
ア. 女性（妊娠期・子育て期を含む）
イ. 働く世代

追加実施事項【選択事項】

- ① **相談斡旋窓口機能**
地域住民の多様な健康状態やニーズに応じた情報提供や相談を行う窓口の設置



- ② **官学連携**
地域の大学等に備わる専門的知識や施設の活用

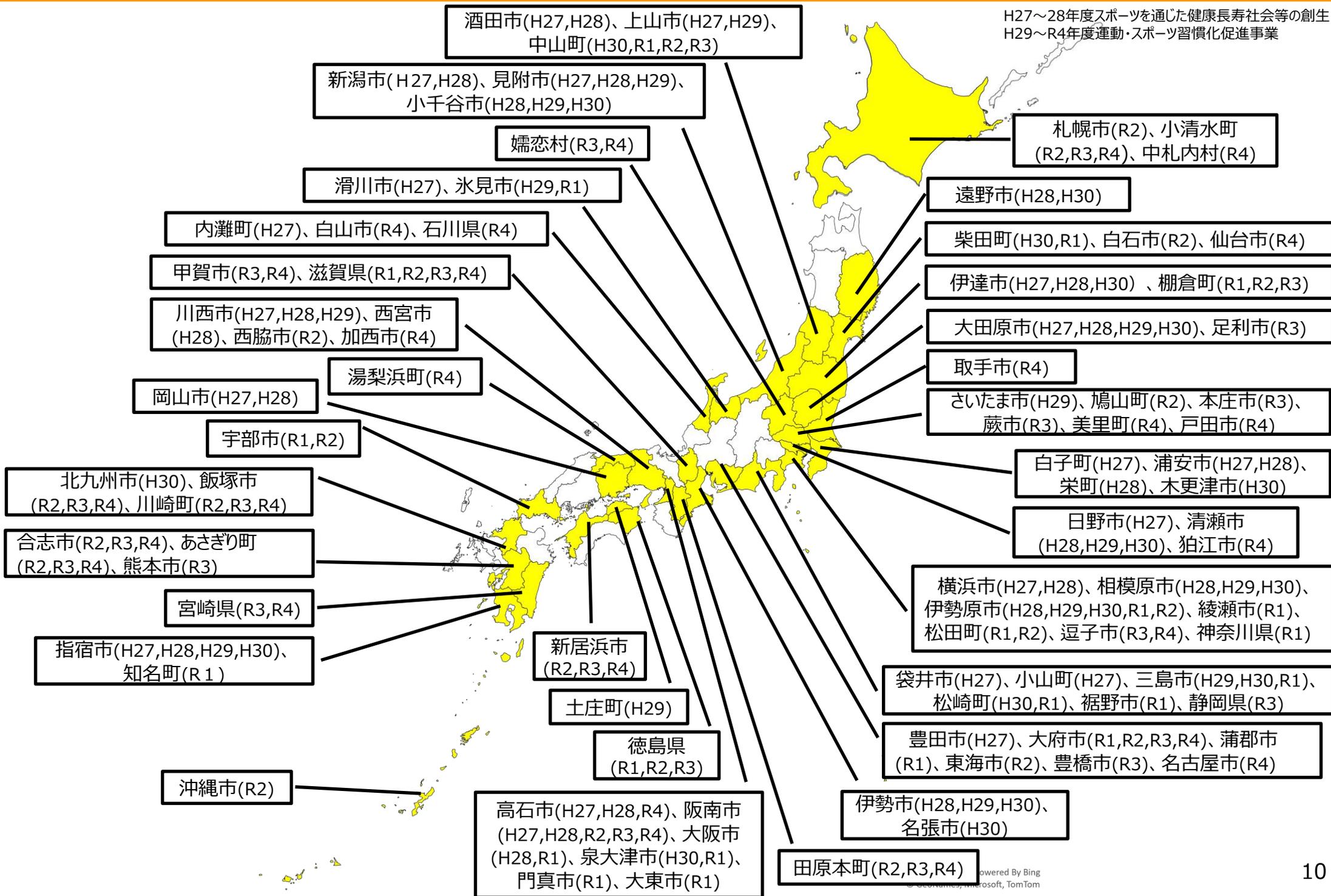


- ③ **複数の地方公共団体の連携・協働**

- ④ **運動・スポーツ関連資源マップの作成・活用**
地域住民の健康状態に応じたスポーツ実施場所等の情報を見える化したマップの作成・活用

運動・スポーツ習慣化促進事業 参画自治体(平成27~令和4年度)

H27~28年度スポーツを通じた健康長寿社会等の創生
H29~R4年度運動・スポーツ習慣化促進事業



○身体診断「セルフチェック」動画

老若男女問わず自分のペースで簡単に自分の身体の状態を知ることができるセルフチェック動画です。



【肩甲骨の可動性】 Scapular mobility (elevation)

肩甲骨の可動性（上肢挙上）が低下していると、テニスやバレーボール、水泳など特に腕を挙上するようなスポーツで肩に問題が発生するだけでなく、腰や足への負担が増える可能性があります。鏡を見ながら肩甲骨の可動性を確認してみましょう。
※無理せずに行ってください。

チェック動画 self-evaluation



改善動画 corrective exercise



- ①肩甲骨の動き(上肢挙上)
- ②足首の柔らかさ
- ③胸椎の動き
- ④股関節と背骨の可動性 前屈/後屈
- ⑤下半身の筋力
- ⑥首の動き
- ⑦肩の動き(肩内旋)
- ⑧上体の筋力
- ⑨股関節屈曲の動き(内旋/外旋)
股関節伸展の動き
- ⑩上半身と下半身の可動性とバランス
- ⑪体幹部の筋力 (全11種類)

室伏長官による「3カ月チャレンジ 身体機能向上プログラム」を開催

日時：令和5年6月26日（月）

会場：文部科学省 講堂

参加者：Sport in Life加盟の38企業・団体等が参加
（計58名／定員60名）

実施内容：

- ① 講演：ライフパフォーマンスの向上を目指して自分の身体を知り、身体機能の維持・向上を目的としたエクササイズを行う重要性
- ② 実技：スポーツ庁のセルフチェックと改善エクササイズの実施



円の形をキープしたまま身体を回転させることで胸まわりの可動域を改善



体重を側方に寄せた状態でのスクワット運動
下半身へアプローチする



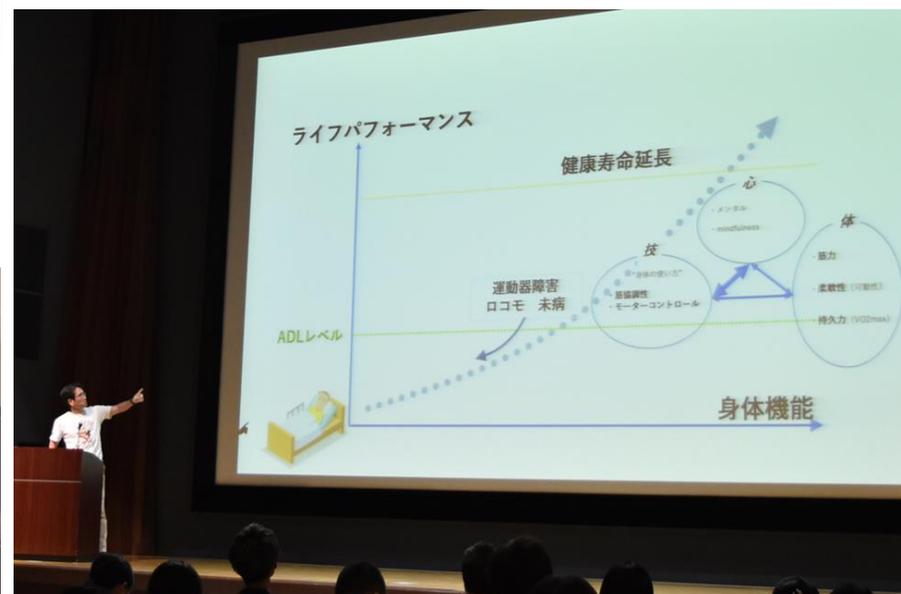
横坐りの上下運動で股関節の動きを引き出す



肩の機能の状態と腰痛の関係性等について説明



スポーツ庁のセルフチェックで身体機能を自らチェックし、機能改善できることを説明



ライフパフォーマンスの向上に向けた運動・スポーツの実施とその意義を説明

スポーツツーリズムの促進

- 【現状・課題】「スポーツツーリズム」等を通じた交流人口の拡大による地域の活性化を推進する必要がある。
- 【今後の取組】スポーツツーリズムのコンテンツの創出を推進し、まちづくりの担い手の育成を支援することにより、スポーツの振興と地方創生との好循環を実現する。また、文化庁、観光庁と連携し、「スポーツ文化ツーリズム」の定着に向けた取組を引き続き実施する。

スポーツツーリズムのコンテンツの創出

○ スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業

「スポーツツーリズム」等を通じた交流人口の拡大による地域の活性化を推進するため、①高付加価値コンテンツの創出に向けた取組をモデル的に支援する。また、ポストコロナを見据え、②スポーツツーリズム・ムーブメントを創出する。

① 武道等の地域スポーツ資源を活用したスポーツツーリズムコンテンツの創出

・日本の特色ある自然・文化等を活かした、国内外旅行者から選ばれるスポーツツーリズム等の優良コンテンツを創出するため、重点分野の「武道」を中心に、アウトドアスポーツ・アーバンスポーツも含めたテーマ別に実証モデルを選定、実施し、事業の効果検証等を行う。



(取組例①) 武道ツーリズム (取組例②) スノースポーツツーリズム (取組例③) サイクルツーリズム (取組例④) アーバンスポーツツーリズム

② スポーツツーリズム・ムーブメントの創出による自走化の促進

・ポストコロナを見据え、デジタル技術を活用したスポーツツーリズムのプロモーションをより一層推進するとともに、プロモーションを通じて収集したデータを分析の上、担い手（地域SC、観光協会等）へ提供し、担い手による利活用を促進することで、スポーツツーリズムの自走化を促進する。



まちづくりの担い手育成支援

○ スポーツによる地域振興・まちづくり担い手育成総合支援事業

スポーツツーリズムを中心に、スポーツによる地方創生・まちづくりを推進する「地域スポーツコミッション」（地域SC）の「質の向上」に向け、①新たな事業展開へのチャレンジ等をモデル的に支援するとともに、②基盤となる人材の育成・確保の取組を推進する。

① 地域SC経営多角化等支援事業

- ・地域SCの多角的な事業展開を後押しするため、
 - スポーツツーリズムなど交流人口を拡大する事業（アウトター事業）
 - 運動教室など、地域住民同士の交流促進を図る事業（インナー事業）など新たなチャレンジをモデル的に支援する。
- ・地域を挙げた取組を一層後押しするため、地域SCの新設に必要な費用を支援する。



●アウトター事業の事例：
恒常的なスポーツ誘客が可能な「通年・通年型スポーツアクティビティの創出」



日本発祥の武道をコンテンツ化 ホストタウンのレガシー化

●インナー事業の事例：
地域コミュニティの活性化を図る「交流イベント・スポーツインライフの推進」



オリンピックによるランニング教室 企業・地域が連携した多世代運動会

② 地域SC基盤人材育成サポート事業

- ・地域SC経営多角化等支援事業を活用する者に対し、個別コンサルティングを行う。
- ・地域SCの中心となる人材の確保・育成に関するニーズ把握等の調査結果（令和4年度に実施）を踏まえ、人材マッチングや人材育成手法をモデル的に実証する。
- ・各地域SCと、地域SCの中心となる人材との間の知見・ノウハウの共有化を図るためのネットワークづくりを促進する。

【観光立国推進基本計画（第4次）の目標】 ①訪日外国人旅行消費額：早期5兆円達成／②訪日外国人旅行者数：2025年までに3200万人（2019年水準）超え

○これまでの「外国人観光客を呼び込む」という観点から更に視野を広げて、インバウンド需要をより大きく効果的に根付かせる方策を検討・取りまとめ

○以下3分野における約80の施策によって、国際的な人的交流を伴う取組の深化と掘り起しにより、インバウンドの着実な拡大を図る

I. ビジネス分野(40施策)

モノの流れだけでなくヒトの動きを促すことに注力し、日本を舞台とするビジネス交流の拡大を図りながら、国際的なビジネスネットワークの結節点として新たな価値の創造・発信と世界経済におけるプレゼンス向上を図る。

1. 投資拡大の機会を捉えたビジネス交流の促進
 - ・ビジネス交流拡大にも資する国内投資の拡大や開発拠点の整備[1]
 - ・海外企業経営者層等の招へい・ビジネスマッチング拡大、国内外のスタートアップ・エコシステムのネットワーク強化等 [1]-[4]
2. 国際金融センターの我が国における拠点化
3. 外国人に対する粒子線治療等の医療の提供
4. ビジネスマッチング等を通じた海外企業関係者等との交流拡大
 - ・世界的なVC等の招へいイベント開催[7]
5. 国際会議、国際見本市等の積極的な開催・誘致
 - ・ジャパンモビリティショーや東京クリエイティブサロン等のグローバル化促進によるビジネス交流の拡大[15]
 - ・外資系企業や日本の大手企業等、グローバルに事業展開を行う企業会議の日本開催の促進 [16]
6. 産業資源の活用による新たなビジネス交流需要の獲得
 - ・地域に眠るデザイン資源や、企業の倉庫に眠るアート等を発掘・可視化等を行い、ビジネスインバウンド客向けの延泊・地方送客のための新市場を創出[31]
7. 人的交流の促進
 - ・国際的なリモートワーカー（デジタルノマド）呼び込みのためのビザ・在留資格などについて本年度中の制度化[36]
 - ・訪日プロモーションにおけるJNTO海外事務所と在外公館の連携強化[40]

- ✓ ビジネス目的での訪日外国人旅行消費額を2割増加 (7,200億円 (R1) ⇒ 8,600億円 (R7))
- ✓ 国際会議の開催件数(※教育・研究分野等で行われるものを含む)・アジアNo.1の開催国として不動の地位、世界5位以内 (R12)
- ✓ 展示会・見本市への外国人参加者数を2割増加 (139千人 (R1) ⇒ 167千人 (R7))

II. 教育・研究分野(13施策)

大学等の研究力の強化、海外の研究拠点の呼び込み、国際学会の積極的な開催・誘致を図り、日本の大学や研究機関のレベルアップと国際頭脳循環の推進を図る。留学生の受入れ促進や教育の国際化により、教育分野の人的交流を促進する。

1. グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の推進
 - ・海外トップ大学等とも連携した、研究機能とインキュベーション機能を兼ね備えたグローバル拠点の創設[41]
2. 世界トップレベルの研究人材の交流促進
 - ・10兆円規模の大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援や、地域の中核大学・特定分野の強みを持つ大学の強化による、研究環境の整備[42][43]
 - ・世界トップレベルの研究水準を誇る国際研究拠点の形成、国際共同研究に対する戦略的・機動的な支援による、国際頭脳循環の推進[44][46]
3. 留学生等の積極的な受入れ
 - ・各国の学生の留学を巡る諸情報の収集・分析、リクルーティングや広報の強化、高校生の国際交流の促進、大学の国際化の推進等により、2033年までに外国人留学生受入数40万人を実現 [47]-[49]
4. 国際学会の積極的な開催・誘致
 - ・国際卓越研究大学における国際学会開催数等の評価、海外のトップ研究者との国際共同研究の支援[50]
 - ・国際学会等の開催に向けた支援、関係省庁間の連携[51]
 - ・重要な学会等国際会議の主催者等への助成[53]

- ✓ 海外からの研究者の受入れ数を2割増加 (13千人 (R1) ⇒ 16千人 (R7))
- ✓ 科学技術・自然・医療・社会分野等に係る国際会議への外国人参加者数を2割増加 (155千人 (R1) ⇒ 186千人 (R7))

III. 文化芸術・スポーツ・自然分野(25施策)

文化芸術の国際発信強化とグローバル展開をビジネスの観点を取り入れつつ戦略的に進めるとともに、スポーツ産業の拡大に向けてビジネスの視点での施策を展開するほか、自然体験を楽しむ特色ある取組を全国各地で創出する。

1. 海外向けコンテンツビジネスの育成・発展
 - ・個別の作品を超えて作家ごとの海外展開等を行う仲介者への支援や翻訳家の育成等によるコンテンツの海外展開支援[54]
 - ・官民連携によるトップアーティストの発掘、グローバルレベルでのキャリアを積み場への参加等の育成支援[56]
 - ・メディア芸術分野振興の中核となる国際拠点整備[57]
 - ・先進的なデジタル技術を活用したコンテンツ創出支援等による映像コンテンツ産業の海外展開推進・デジタル化[61]
 - ・海外に開かれた文化芸術拠点となる国際的なアートフェアの誘致等の拡大[62]
2. スポーツコンテンツビジネスの国際展開・スポーツツーリズムの推進
 - ・バーチャル空間等の先端技術の活用によるスポーツ環境の向上、スポーツと他産業との連携による事業創出の推進[67]
 - ・プロスポーツ団体によるスポーツイベントを活用した観戦ツアー・競技体験・交流会等の特別なコンテンツの提供等[68]
 - ・海外の道場と繋ぐオンライン稽古やミニ武道体験等、武道等に着眼したスポーツツーリズムを契機とした地方誘客の促進[69]
3. ナイトタイム等におけるコンテンツの充実
 - ・美術館・博物館の早朝・夜間開館をはじめとした文化資源の活用、特別な体験の提供[71]
4. 国際会議・国際見本市等の積極的な開催・誘致
 - ・世界遺産をはじめとする文化財の技術的活用促進[73]
5. 少数限定の宿泊体験・体験型コンテンツの提供
 - ・民間提案による国立公園利用の魅力向上に向けた複数国立公園における具体的事業構想の検討、先端モデル地域の決定[76]

- ✓ 世界のアート市場における我が国の売上額シェアを7位に引き上げ (ランク外 (R1) ⇒ 7位 (R7))
- ✓ スポーツ目的の訪日外国人旅行者数を2割増加 (229万人 (R1) ⇒ 270万人 (R7))

本アクションプランのフォローアップを行い、進捗の点検と取組の一層の充実・強化を図る

「スポーツ・健康まちづくり」優良自治体表彰制度 (通称：スポまち！長官表彰)

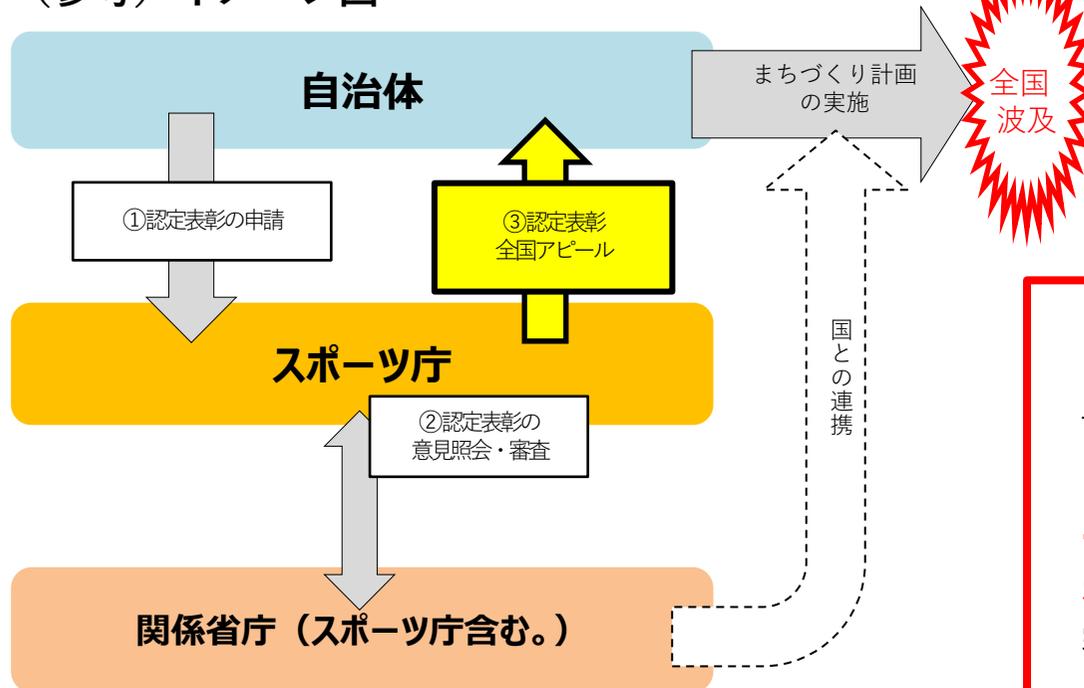
東京 2020 大会等の後も、そのレガシーとして、全国を先導するような優良な「スポーツ・健康まちづくり」に国の事業 (※) も活用して今後取り組もうとしている自治体のアイデアを表彰するとともに、積極的に広く全国へアピールし、スポーツを活用した特色あるまちづくりの全国展開を推進。

※採択済みの予算事業、認定済みの地域再生計画に基づく特別措置

表彰審査を通った自治体は、

- (1) **室伏スポーツ庁長官**から表彰式において**直接に**表彰授与
- (2) スポーツ庁が**様々な媒体で積極的に広く全国にアピール**

(参考) イメージ図



★審査書類の特例 (簡素化)

表彰審査のため「スポーツ・健康まちづくり計画」を提出頂きますが、「**地方創生推進交付金**」、「**企業版ふるさと納税**」などを受けるために地域再生法に基づく**認定を既に受けた地域再生計画**を提出いただければ、表彰審査資料である計画の提出は省略することができます。

「スポまち！長官表彰2022」受賞自治体一覧

No.	自治体名	取組名称
1	宮城県大河原町	千本桜スポーツパークを活用したWell-beingなまちづくりプロジェクト
2	茨城県笠間市	プロスポーツチームと連携した「スポーツシティ かさま」の推進
3	茨城県鹿嶋市	「医療の不足を補完する，市民が自分でコントロールできる健康の実現」を目指した公民連携事業 「鹿嶋市M V Mヘルスケア事業」
4	茨城県境町	子育て世代等も楽しめるサーフィンを活用したまちづくり ～ホノルル市と姉妹都市の海のない町の挑戦！～
5	栃木県栃木市	サイクルスポーツで賑わいのあるまちづくりプロジェクト
6	埼玉県久喜市	地域内連携やデジタル技術を活用したスポーツ・健康まちづくり！ ～久喜市健幸・スポーツ都市プロジェクト～
7	千葉県長柄町	長柄町版大学連携型生涯活躍のまち（長柄町版CCRC）
8	石川県宝達志水町	育てよ！町の宝 ～郷土愛を育む"スポーツ×文化"による地域活性化プロジェクト～
9	山梨県韮崎市	韮崎市「ウェルネスの実現」まちづくり計画
10	長野県長野市	ホームタウンNAGANOまちづくり連携推進ビジョン
11	静岡県磐田市	スポーツでつくる！育てる！磐田の未来創造プロジェクト ～スポーツのまちを体感できるまちづくり～
12	静岡県御殿場市	TOKYO FORWARD 空手道で教育・文化・経済を活性化！
13	大阪府松原市	「スケボーのまち」で地域に誇りを！ まつばら シビックプライドプロジェクト
14	大阪府東大阪市	ウィルチェアスポーツを通じたまちづくりの推進プロジェクト
15	岡山県赤磐市	スポーツで未来へ希望芽生える健康まちづくり事業
16	徳島県三好市	三好市アウトドアスポーツのまちづくり計画 Amazing Watersports experience in Miyoshi city
17	佐賀県武雄市	「武雄×スポーツ」まちづくりを始めます！ ～SAGA武雄温泉スポーツコミッション事業～
18	佐賀県みやき町	女子サッカーのまち ～「する」「みる」「ささえる」で「健幸」になる～
19	熊本県大津町	スポーツと文化で大津町の魅力を発信！ ～地域経済活性化プロジェクト～
20	宮崎県都農町	つの職育プロジェクト ～スポーツ選手による町の課題解決～



千本桜スポーツパークを活用したWell-Beingなまちづくりプロジェクト



スポまち！長官表彰2022
宮城県大河原町

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしま「楽しいまち」への転換

<目標内容>

スポーツ振興を町長部局に移管し町民の誰もがウォーキング・サイクリング・パークゴルフなどのスポーツを楽しむことに加え、日常での様々な身体の活動をスポーツと捉え“楽しみながら健康づくりができるまち”、“ここからだもHappyになれる”、“元気でポジティブなイメージ”を発信できるまちを実現し交流人口・関係人口の拡大につなげる。
・河川敷アクティブスポーツ施設利用者数〔R5〕5,000人 → 〔R7〕12,000人 ・歩いて健幸事業登録者〔R5〕800人 → 〔R7〕1,200人

<PRポイント>

楽しみながらの健康づくり

【おおがわら千本桜スポーツパーク】…河川敷にマウンテンバイクコース、ドッグラン、パークゴルフ場などの施設整備・堤防天端にウォーキング・サイクリングロード（おおがわら桜ライン）として整備

【第1期スポーツ推進計画】…日常生活における意識的に継続して行う身体活動をスポーツとして捉え楽しい健康づくりの実現

新たな賑わいの創出

【千本桜を千年先に】…河川敷堤内地約3,000㎡に白石川堤一目千本桜の新たな賑わいと観光を施設整備

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題> ～健康意識が高く、子供の学力も高い、便利で住みよいCompact Town～

- ・白石川堤一目千本桜（日本さくら名所百選：祭り時20万人来客/年間）だが、通年で観光資源、魅力づくりが求められている
- ・特定健診者（40歳～74歳まで）の健康診断受診率の低下、メタボ結果での悪化

<総合的な取組内容>

千本桜スポーツパークを活用したWell-Beingなまちづくり

- スポーツ振興を町長部局に移管
新たな「(仮称)スポーツまちづくり推進課」として、スポーツによるWell-Beingなまちづくりを推進する
- スポーツをまちづくりの必須アイテムとして活用
千本桜スポーツパークとサイクリング・ウォーキングロード（おおがわら桜ライン）を活用して、健康づくり・人づくり・地域づくり・広域的連携を図る
- 歩くことの継続を支援する「歩いて健幸事業」
システム専用の歩数計で、歩数にポイントをつけ、ウォーキング情報や歩数ポイントで地場産品が当選



千本桜スポーツパーク 完成イメージ

■ スポーツと観光の連携

新たな観光スポット&アクティビティが楽しめる空間を整備
(令和7年度完成予定)



健康づくり
「ノルディックウォーキング教室」



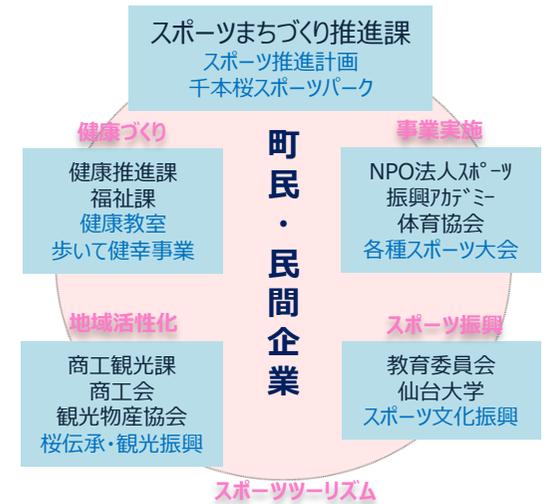
地域づくり・広域連携
「仙南サイクルツーリズム事業」



人づくり
「マウンテンバイク体験教室」

【フォローアップ欄】 令和5年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制(図)>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：大河原町教育振興計画
- 地方版総合戦略：
大河原町まち・ひと・しごと創生推進計画
- 地域スポーツコミッション：無 ● その他：

【問合せ先・電話番号】 0224-53-2758

宮城県大河原町教育委員会

生涯学習課 スポーツ推進係

まち全体まるごとスポーツに親しむことができる **場**へ

スポーツ・健康 まちづくりデザイン 学生コンペティション 2023

参加申込期間

06/21(水) → 07/12(水)

キミたちの発想が
まちを変えます!

多くの学生からのご応募お待ちしております!

応募の詳細は
スポーツ庁HP
へ



アイデア部門

気軽にスポーツに親しむことができるよう、まちなかでの行為(活動シーン)に着目し、そのシーンを実現するためのアイデアを募集します。

(例) 歩く→歩行空間のアイデア/登る→階段のアイデア/スケボーをする→道路のアイデア など



デザイン部門

気軽にスポーツに親しむことができる都市空間の具体的なデザイン(都市空間における建築・都市計画等のデザイン(ハード)やまちづくり等の仕組み(ソフト))を募集します。

(例) 歩く→歩きやすくなるデザイン/自転車でめぐる→自転車から見える風景のデザイン など

[応募対象] 大学院、大学、短大、高等専門学校、専門学校等の **学生団体** 又は **学生個人**

[受賞特典]

- ◎スポーツ庁長官賞(各部門1点)
(副賞)提案自治体へのプレゼンテーション、スポーツ庁HPやSNS等による紹介等
- ◎優秀賞(アイデア部門9点・デザイン部門4点)
(副賞)スポーツ庁HPやSNS等による紹介等

スポーツが変える、未来を創る。

Enjoy Sports, Enjoy Life



スポーツ庁

JAPAN SPORTS AGENCY